

国立大学法人 長岡技術科学大学
平成30年度第3回経営協議会議事要旨

日 時 平成30年11月30日（金）13時40分～15時40分
場 所 ホテルニューオータニ長岡 うめの間
出席者 東議長、天羽委員、池田委員、大貝委員、谷口委員、中野委員、鎌土委員、
三上委員、秋山委員、佐藤委員、中出委員、大石委員
(議事の表決委任による出席 磯田委員、合田委員、五味委員、関委員、トラン委員)
陪席者 齋藤監事、滝上監事、和田附属図書館長
事務局 総務部長、大学戦略課長、企画・広報室長、総合情報課長、総務課長、財務課長、
学務課長、監査室長、総務課課長補佐、財務課課長補佐、財務課予算係員、
総務課総務係長、総務課専門職員（総務企画担当）、総務課総務係員

議事に先立ち、平成30年度第2回議事要旨(案)について説明があり、案のとおり承認した。

審議事項

1. 就業規則の改正について

秋山委員から、平成30年人事院勧告に伴う一般職の職員の給与に関する法律の一部改正に沿い、職員給与規則及び役員報酬規則を改正すること、及び、給与関係規程を今後制定される関係人事院規則に準拠した改正を行う方針について、資料1に基づき説明があり、審議の結果、これを承認した。

2. 平成30年度長岡技術科学大学補正予算の編成について

秋山委員から、資料2-1～2-3に基づき説明があり、審議の結果、これを承認した。

主な質疑応答は以下のとおり。（○：学外委員からの質問、意見等 ●：学内委員からの回答）

○連携サテライトオフィス開設による収入増とは、どのようなものか。

●本学と連携する企業等に部屋を有償で貸し、日常的に教職員や学生と交流を図るもの。多くの学生が通る廊下にもデジタルサイネージを設置し、会社のPRもできる。現在2社が利用している。

○将来的には、いくつの会社が利用可能か。

●10社くらいは利用可能だと考えている。

3. 平成29事業年度目的積立金について

秋山委員から、文部科学大臣から承認された平成29年度決算剰余金を目的積立金へ繰り入れることについて、資料3に基づき説明があり、審議の結果、これを承認した。

報告事項

1 学長再任の所信について

学長から資料4に基づき、説明があった。

主な質疑応答は以下のとおり。(○：学外委員からの質問、意見等 ●：学長からの回答)

○教員評価について、教育面をどのように評価していくのか。

●教育面は、学生アンケートなどの評価があるが数値では表しづらい部分である。

今年度から、全ての教員に来年度の目標を書かせ、その達成度を数値として示せないところはアピールし自己評価してもらう。これを役員が確認し評価することとしている。

○地方創生の取組について、技術を支援するファンドの取組がある。

新潟ベンチャーキャピタルでは新潟のベンチャー企業を支援する地方創生のファンドがあり、また、銀行もそのような流れになっている。

本学が何かを起こせば、周辺にもお金が回ってくる可能性もある。

●技術科学イノベーション専攻を中心に起業セミナーなどを行っているが、実績が上がっていない。卓越研究院プログラムでも必要となることなので、検討していきたい。

○今回の学長の方針は、ホームページ等で公表されるか。組織の共通認識として、公開された方が良い。

●学内には説明し公表している。学外向けの資料については、検討させてもらいたい。

2 卓越大学院プログラムの採択について

鎌土委員から資料5に基づき、報告があった。

主な質疑応答は以下のとおり。(○：学外委員からの質問、意見等 ●：学内委員からの回答)

○学生に実践の場を提供し教育するとどのような人材が育つのか、最終的な到達目標はあるか。

また、具体的に示す指標はあるか。

●このプログラムで育った学生が、参加企業から求められる人材になること。また、新しいベンチャーを起こす学生を増やすことや新産業を創出するセクションに配属されることなどを考えている。

また、このプログラムを修了した学生の追跡調査が義務付けられており、どのような会社に就職したか、どのような職に就いたかを確認し、報告しなければならない。

○学生にも到達目標を示して、頑張ってもらいたい。ただし、数値は示さない方が良い。

●学生は、「JGRAD（博士人材データベース）」に登録する必要がある。本学における学部・大学院の記録のほかに、高専出身の学生については、高専時代の記録を登録できるように文部科学省に要望している。

○予算はどうなっているか。

●4年目には半額となり、7年目には3分の1になる。企業から資金を出していただけるプログラムにしないといけない。

○実践の場として、新潟市ではスカイプロジェクトがあるが、長岡市では具体的なプロジェクトやテーマはあるか。

●長岡市ではN a D e C構想の中で検討している。テーマも、長岡市と相談している。

この他、鹿児島県長島町や函館市とは、農業や水産業の分野で行政と共に実践の場を構築する計画である。

○企業にはどのようにPRするのか。プランはあるか。

●既に8社はプログラムの構想段階から入ってもらっている。

また、本学の共同研究先の企業にPRしていきたい。

○新しい企業の掘り起こしも必要である。

企業を選ぶ考え方として、グローバルを意識し、世界展開している企業に提案すると賛同が得られやすいのではないか。

会社のビジョンなどから、「グローバルファースト」のところが見えてくる。

○また、企業にアタックできるプロフェッショナルを採用すると良い。

●企業はこれから開拓していかなければならない。

国連にも認められた「SDGs」の取組もPR効果があると思う。

委員の皆様からも意見をいただきながら、進めていきたい。

○現行の学科とのつながりはどうなるのか。

●全ての学士課程から受け入れられる制度としたい。

3 国連アカデミック・インパクトのSDGsゴール9ハブ大学任命について

三上委員から資料6に基づき、報告があった。

○良い取組なので、新聞社に取り上げてもらうなど、社会に向けてもっと発信力を高めてほしい。

4 平成29年度に係る業務の実績に関する評価結果について

鎌土委員から資料7に基づき、報告があった。

5 平成29事業年度財務諸表の承認について

秋山委員から資料8に基づき、報告があった。

6 平成31年度概算要求について

秋山委員から資料9-1~9-3に基づき、報告があった。

7 長岡技術科学大学外部評価の実施について

鎌土委員から資料10に基づき、報告があった。

以 上